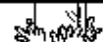




書物は青年時代における道案内であり、成人になってからは娯楽である。
(コリアー=イギリスの経済学者)



はじめよう！「家族で読書」続けよう！「家族で読書」 今より家族が近くなる 「家族におくる一冊」メッセージコンテスト入選作品決定

県では、子どもの頃から読書習慣を身に付け、読書が一層身近になる環境づくりを進めるため、学校での一斉読書とともに家族で読書の楽しさを共有する「家族で読書」運動を推奨しています。

今年度、大切な家族に読んでほしい本、家族と一緒に読みたい本を、家族へのお勧めメッセージにして募集したところ、たくさんの県民のみなさまから応募いただきました。選考の結果、15作品が入選

作品に決定し、10月19日（土）、秋田県児童会館けやきシアターで表彰式が行われました。

入選作品は、後日印刷配付し、各図書館の展示等に活用していただく予定です。また、この紙面でも紹介していきますので、お楽しみに。



表彰式に参加した入賞者のみなさん

「家族におくる一冊」
メッセージコンテスト入選作品
小学生以下の部

『ちよっとだけ』（福音館書店）
滝村有子・さく 鈴木永子・え
秋田市立飯島小学校1年
浅利 果穂さん

いもうとのなほへ。かほもなほがうまれておねえちゃんになりました。おねえちゃんになってちよっとだけがまんすることもふえたけど、しあわせなこともたくさんふえました。かほのいもうとになってくれてありがとう。

『海のおさかな大百科1
サンゴの海のかわいいさかな』（新日本出版社）
中村征夫 さかなクン/著
横手市立福地小学校5年
佐々木 誠人さん

おさかなのかおは、かそくににているよ。おとうさんはさざなみふぐ。おかあさんは、わかいさざなみふぐ。きれいでかわいい。おねえちゃんは、とげちょうちょうお。ほそくてきれい。みてるよ、にこにこしちゃうよ。

『ちびねこチョコビ』（あかね書房）
角野栄子・作 垂石眞子・絵
横手市立福地小学校2年
佐々木 久臣さん

チョコビは、小さいのにいちばんたくさんたべたくておじやだらけになるんだよ。そんなチョコビの体を、メメはなめてきれいにしてくれる。やさしいから大好き。あったかい気持ちになる本だよ。ぜひいっしょに読もうね。

『エルマーのぼうけん』（福音館書店）
ルース・スタイルス・ガネットさく
ルース・クリスマン・ガネットえ
わたなべしげお やく
能代市立湊城西小学校1年
平川 眺多さん

エルマーはそらをとんだんだけ。なんと、りゅうのせ中にとつて。パパとママにはひみつでいえをでたんだよ。ぼくはひみつはムリだけど、ぼうけんはいきたいなあ。おとこはひろいせかいにきょうみがあるんだよ。

『あさえとちいさいいもうと』（福音館書店）
筒井頼子・さく 林明子・え
秋田市立八橋小学校1年
藤澤 心花さん

ひまりちゃんに、ねるまえだっこしながらよんであげたいほんがあるよ。わたしも、ちいさいいもうとをさがしにいきたくなるおはなし。さいご、ふたりがぎゅうするところがだいすき。こころがふわっとあたたかくなるの。

第15回中学年児童朗読大会

今年も、秋田市立土崎図書館は、土崎図書館友の会と共催で北部地区の小学生を対象に、朗読大会を行っています。

11月16日（土）は中学年の部が行われ、9校から、3年生25名、4年生25名が発表しました。元アナウンサーで、声のグループ「ひいらぎの会」の安倍眞壽美さんによる、ウォーミングアップの発



緊張をほぐすウォーミングアップ

声練習の後、朗読を行いました。授業で情景や心情を十分味わった教材だからでしょう、声の強弱や読む速さ、間の取り方にそれぞれ工夫があり、物語の世界に引き込まれる発表がたくさんありました。応援のために参加した小学生の一人は「次は私も発表したい。」と話していました。

体育館から広がれ！ 読書の輪

昨年度、三種町琴丘体育館に、図書コーナーができたことを紹介いたしましたが、11月16日、プロバスケットボールbjリーグ秋田ノーザンハピネッツのマスコットキャラクター「ビッキー」と子どもたちの交流が行われました。「ハピネッツとハッピー読書」のコーナーを設置したことを



地域の人々に広報するために、保育園のお遊戯会に合わせて体育館の職員鎌田さんと琴丘中学校の図書館担当の伊勢さんが企画しました。ビッキーから「GO!GO! ビッキー」絵本をもらい、一緒に写真を撮った園児たちは大喜びでした。

また、琴丘体育館の図書コーナーには、授業で作った中学生の詩や絵、地域の方の手芸作品が本と一緒に並べられ、温かみのある展示になっています。テーマも、琴丘中学校卒業生の渡辺博栄（日本気象協会）氏から寄贈された図書を中心とした「気象」、体



部活動中のバスケ部員も飛び入りから「GO!GO! ビッキー」絵本をもらい、一緒に写真を撮った園児たちは大喜びでした。



詩や絵と「のはらうた」の展示

育館利用者を意識した「琴中トリオ～バスケットOB」など、先輩たちの活躍を誇りに思えるような設定です。このように、地域の特色を生かした図書コーナーづくりをしています。また、能代市立図書館や県立図書館の団体貸出を利用しているので、種類も冊数も充実しています。「大会があると、一緒についてきた子どもたちが本を読んで、このあたりはすごい状態になるんですよ。」と、鎌田さんがうれしそうに話していました。

さらに、「図書室以外でも本を読めるように、子どもたちの身近な場所に本を置きたい」という鎌田教育長の考えで、山本体育館と八竜体育館にも図書コーナーができました。

さらに、「図書室以外でも本を読めるように、子どもたちの身近な場所に本を置きたい」という鎌田教育長の考えで、山本体育館と八竜体育館にも図書コーナーができました。



山本体育館（左）と八竜体育館（右）の図書コーナー

三種町の3体育館には、手に取りやすい絵本や伝記、落語の本だけでなく、「ハピネッツとハッピー読書」のコーナーが必ず設置されているほか、「武士道」「負け組の奇跡」「勝利哲学」などが並んでいます。

『0歳から高齢者まで 心に届くよみきかせを』

11月20日（水）、秋田県生涯学習奨励員活動発表研究会で、男鹿市の西村栄子さんが地域での読書活動について発表しました。

西村さんは、まず、母親として、絵本の面白さや魅力を感じ、子どもの友達にも伝えたいという思いから、読み聞かせサポーター養成講座を受講し、グループ「虹の会」に入って活動しています。

男鹿市で行っている「ブックスタート事業」の0歳児から、保育園児、各学校の児童生徒、福祉施設のお年寄りまで、幅広い年齢に読み聞かせを行い、ときには、折り紙体験やBGMを入れるなどの工夫をして、感動を届けています。



発表会場で「桃源郷ものがたり」を読み聞かせる西村さん

高校生の感想の中には、「次は聞く方ではなく、読み聞かせをするのも楽しそうだった。」というものもあり、若い世代の読書活動につながっているようです。

最後に、「自分たちが幸せや生き甲斐を感じていますので、それぞれの家庭や仕事で忙しくても、ずっと活動を続けています。」と話していました。

10月の「打って出る司書」

<訪問した市町村立図書館・公民館図書室の数>

県北	県央	県南
6館室	8館室	8館室

秋田県教育庁生涯学習課
生涯学習・読書推進班



URL <http://www.pref.akita.lg.jp/syogaku/>